

授業概要

この授業は教職をとる上で、必須となる教育の基本的概念と教育に関する歴史と思想をおさえるものである。前半では、教育の基本的概念を教育哲学的に整理し、考察を深めていく。続いて後半では、教育に関する歴史と思想を、背景となる政治・経済・社会的な動きを絡めながらおさえていく。最後に、現代の教育に関する問題に対する視座を獲得したい。

授業計画

第1回	オリエンテーション：授業の方法や進め方
第2回	教育行為と教育関係：ドイツにおける陶冶論を手がかりに
第3回	教育内容・教育方法・教育評価：「学習指導要領」とそのカリキュラムの変遷
第4回	教育「制度」①：見える形の制度、公教育制度
第5回	教育「制度」②：見えない形の制度、「再生産」や「規律訓練化」
第6回	西洋教育思想史①：キリスト教人文主義者からコメニウスまで
第7回	日本教育史①：古代から近世まで、階級間での差異に注目して
第8回	西洋教育思想史②：啓蒙主義者らの主張と、メディア機器・社会生活の変遷
第9回	日本教育史②：近代以降、とりわけ学校制度の整備から大正新教育まで
第10回	西洋教育思想史③：ペスタロッチ、ヘルバルト、フレーベルらの教育方法に関する思想家と、フンボルトやベンサムらの教育制度に関する思想家まで
第11回	日本教育史③：戦前から戦後に至る教育制度・改革について
第12回	現在の教育学に至る思想・哲学：シュライアマハー、コンドルセ、フレーベル、モンテッソーリ、デュルケーム、ヴィトゲンシュタインまで
第13回	教職と現場における問題：メリトクラシーと新自由主義
第14回	家庭教育と民間教育：子どもと地域社会との関係をめぐって
第15回	総括：現代日本の公教育の課題
第16回	定期試験（筆記試験）

到達目標

- 教育に関する諸概念や教育関係成立の諸条件について、考察を深めることができる。
- 過去から現在に至るまで、学校や教育というものに対して、いかなる視座があり、変化していったのかについて、複合的に見ることができる。

履修上の注意

第1回のガイダンス授業の際に、授業方法・評価方法・予習・復習について説明する。第1回の授業に出席できない特別な理由がある場合には申し出て、配布資料を受け取る。なお、教職課程を履修していない人でも、教育という事象に問題意識を持っている方々を歓迎する。

予習復習

予習：指定したプリントの箇所を読んでくること。

復習：配布資料を読み込み、適宜復習していくこと。わからないことは、参考書を用いたり、図書館を用いたりして調べてみる。

評価方法

毎回のリアクションペーパー20%、学期末のテスト80%を基本とする。これを100点換算し、51点以上を合格とする。評価の詳細は第一回の授業で説明する。

テキスト

毎回、中央教育審議会答申や教育法規等を適宜参照したプリントを配布する。
参考書は授業内にて、適宜指示する。